

令和3年度 千代田町立西小学校 学校評価一覧表②(様式2)

評価対象	評価項目	羅針盤				自己評価				学校関係者評価	学校関係者評価委員の意見	今後に向けての学校の考え
		保護者向け	児童向け	職員向け	具体的数値目標	保護者	児童	職員	総合			
キヤリア教育目標	〇かかわる人に対して優しい気持ちをもち、困難があってもあきらめず、目標に向かって努力する姿勢を身に付けた児童が育っているか。	お子さんは、相手の立場や気持ちを考えた親切な行動や言葉がけができる。	相手や友だちの気持ちを考えて、やさしい言葉がけや親切な行動を心掛けている。	子どもたちが相手の立場や気持ちを考えた親切な行動や言葉がけができるよう指導している。	80%以上	86 B	91 A	100 A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・帰りの会などに声を出して感謝の気持ちを伝えるのはよい活動だと考える。 ・相手の立場や気持ちを考え、実践できるような指導が必要である。「いじめ防止集会」などの学校行事の中で対応をしていただくことが大切だと考える。 ・地域でも道を譲ってくれるなど親切な様子が見受けられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「西小よい子のルール」の柱として「みんなが気持ちよく過ごせる素敵な学校」を掲げ、常に子どもたちに意識させていく。 ・道徳や特別活動等を通して、確かな人権感覚を身に付けられよう指導する。 ・他人から受けた親切な行動に対する感謝の気持ちを伝える機会を設定し、親切な言動を意識させていく。
	学校は、学習や運動、行事などで子どもたちが目標を立て、それに向かって努力を続けるよう工夫して指導に当たっている。	学期初めや行事、授業のときに立てた目標に向かって、進んで学習や運動などに取り組み努力している。	子どもたちが目標に向かって主体的に取り組み、努力を続けられるよう指導・支援を工夫している。	80%以上	97 A	87 B	96 A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・先生方の指導によって目標に向かって学習に取り組んでいるように感じられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアパスポート等を活用し、学年・学期・行事等での目標を明確にさせるとともに、取り組みへの振り返りを行う。 ・取組みの過程・努力している姿を見取り、適切な声掛け、励ましを行う。 	
	お子さんは、さまざまなことに対して、うまくいかないことがあってもあきらめず、粘り強く取り組んでいる。	学習や運動などで失敗したりうまくいかなかったりしてもあきらめずに取り組んでいる。	失敗しても困難があってもあきらめずに取り組めるような指導・支援をしている。	80%以上	75 C	90 A	96 A	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・東京オリンピックの選手の方々が入賞を目指し、最後まであきらめず奮闘していた。児童も長所などを伸ばせるよう取り組んでほしい。 ・家庭でお子さんを応援するよう呼びかけていくことも大切だと考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・最後までやり通したときには、称賛し自信をつけさせる経験を積み重ねていけるようにする。 ・成功体験や達成感を味わえる機会を大事にし、努力を継続した過程を提示して実感できるようにしていく。(チャレンジウィークなど) 	
確かな学力	〇児童に望ましい家庭学習習慣が身についているか。	学校が「ちよだチャレンジウィーク」等を設定したり、「毎日の家庭学習」を配付したりすることで、子どもたちに読書や家庭学習が定着している。	「毎日の家庭学習」で示された時間、宿題や読書などにとりくんでいる。	宿題や自主学習、「ちよだチャレンジウィーク」等を活用して、毎日の家庭学習の定着に努めている。	80%以上	84 B	87 B	100 A	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学校と同様に家庭学習においてもしっかりと学習をさせ、学力向上が図れるよう保護者と連携を図っていただきたい。 ・タブレット端末を活用し、音読等を録画する宿題などに張り切って取り組んでいる。いつもと違う宿題を出してもらえるとよいと感じる。 ・チャレンジウィークの設定時間が宿題だけで終わってしまい、それ以上の集中力・時間が続かない。期間中の宿題・自主学習の取り組みせ方に工夫をお願いしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発達段階に合わせた学習の内容例や時間の目安を提示し、子どもたちが継続して家庭学習に取り組めるようにする。 ・子どもたちが家庭学習に意欲的に取り組めるよう、一人一台端末を活用した宿題や課題も設定していく。 ・自主学習への取組の参考となるノートを児童や保護者へ紹介する。
	〇児童の実態を踏まえ、基礎基本の定着を目指した学習指導を行っているか。	資料の提示や発問の仕方等を工夫したり、教科担任制を取り入れたことで、子どもたちにとって「わかりやすい授業」になっている。	学校の授業は分かりやすい。	資料の提示や発問の仕方等を工夫して、子どもたちにとって「わかりやすい授業」を行っている。	80%以上	94 A	96 A	96 A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・児童に興味をわくよう教材・教具を工夫し、楽しく主体的に取り組むことができるようお願いしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が主体的に取り組めるような課題づくりを行うとともに、その時間を通して学んだことを振り返る活動を行う。 ・教師の専門性を生かした教科担当制を推進する。 ・一人一台端末の効果的な活用を図る。
	〇特例校としての成果が出ているか。	英語にかかわる活動を入学前(1年生)から実施することが、英語への関心を高めることに役立っている。	英語の授業は楽しい。	特例校として1年生から外国語活動を実施することにより、子どもたちの英語に対する関心が高まっている。	80%以上	89 B	91 A	100 A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が楽しく授業を受けている様子がうかがえ、取り組みの成果を感じる。 ・授業を楽しく、わかりやすく教えることにより、児童が勉強に興味を持ってくれると考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の成果物や英語に親しめるような掲示物を掲示し、英語に関する関心をより高める。 ・発達段階に応じた系統性のある内容となるよう、指導計画を適宜見直す。 ・低学年では「楽しい」という思いが抱ける授業を行う。
豊かな心の育成	〇児童に挨拶の習慣や適切な言葉遣い、規範意識が身についているか。	お子さんは、気持ちのよい挨拶や返事を心掛け、丁寧な言葉遣いに気を付けている。	気持ちのよい挨拶や返事、「～です。」「～ます。」など丁寧な言葉遣いを心掛けている。	気持ちのよい挨拶や返事、丁寧な言葉遣いなどができるように指導している。	80%以上	78 C	89 B	96 A	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学校に訪問したときには、子どもたちから気持ちのよいあいさつがあり、指導がなされていると感じる。 ・校内で職員室に入る児童を見た時、しっかりと声が出ている。 ・挨拶ができる児童は積極性が身につくので、折に触れ挨拶の大切さを促し「あいさつ先手」の指導をお願いしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内に限らず、登下校中や普段お世話になっている方へのあいさつ、「あいさつ」をする意義等について、継続して指導を行っていく。 ・校内の「あいさつ運動」を継続して行う。また、手本となるあいさつができる児童については、その姿を称賛し、周囲へ広げていけるようにする。 ・大人があいさつや言葉遣いのよい手本となるよう、保護者に協力を仰ぐ。
	お子さんは、時間やきまりを守ったり、役割を自覚した行動をとったりできる。	時間やきまりを守り、当番や仕事などの役割に責任をもって生活している。	子どもたちに時間やきまりを守ったり、自分の役割を果たしたりする姿勢が身につくよう指導している。	80%以上	74 C	92 A	100 A	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学校へ伺うと、低学年の児童は育てている水やり、他学年でも出欠確認など意識をして自分の役割や係活動を行っている様子がうかがえる。 ・時間やきまり、また、約束事を守る指導をしていただけるとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・低学年では生活科に関連して「お手伝い」に取り組みせ、中・高学年では「チャレンジ手帳」を活用し家庭での役割りを習慣化させていく ・ゲームや動画視聴等の時間が長い傾向にあるので、メディアの好ましい利用についての指導に合わせて時間を有効に使うことについて指導していく。 	
	〇「いじめ」の未然防止に向けた温かい人間関係づくりを行っているか。	学校は、「いじめ」が起こらないような温かい人間関係づくりに取り組んでいる。	先生は、「いじめ」が起こらないように、みんなのことをよく見たり、声をかけたりしている。	「いじめ」が起きないような温かい人間関係の構築を心掛けるとともに、アンケートや日常の観察を通していじめの未然防止、早期発見・解消に努めている。	90%以上	85 C	96 B	100 A	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが発信する一つ一つの声や行動を早いうちに受け止めていると思う。保護者や家庭への対応も丁寧に行っていると感じる。 ・家庭からの気づきや報告を学校はきちんと理解し、早めに対応することで信頼関係を深めて行けるとよい。 ・教職員から一人一人の児童への細かな声掛けをお願いしたい。 ・「いじめ防止集会」などの開催により、いじめについて考えること・できることから始めていくことはよいことだと考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃の児童観察から複数の目で実態把握に努め、居場所づくりや好ましい人間関係づくりを支援する。 ・児童の様子を全職員で共有し、学年を越えた指導・支援を行う。 ・トラブルがあった際は、それぞれの話を聞き、迅速に対応する。 ・友達との交流や共同作業を行う中で協力する、相手を傷つけない等のルールを学ばせていく。 ・発見しづらいネットを介した「いじめ」に対して、情報モラル教育を計画的に行うとともに、家庭での指導もお願いしていく。

令和3年度 千代田町立西小学校 学校評価一覧表②(様式2)

羅針盤					自己評価				学校関係者評価	学校関係者評価委員の意見	今後に向けての学校の考え	
評価対象	評価項目	保護者向け	児童向け	職員向け	具体的数値目標	保護者	児童	職員				総合
健康体力づくり	○児童に健康の保持を意識した生活習慣が身についているか。	お子さんは、食事や睡眠、ゲームの時間などについて、規則正しい生活習慣が身についている。	あなたは、早寝早起きや食事、ゲームの時間などについて、規則正しい生活を心掛けている。	食事や睡眠など、規則正しい生活が身に付くように指導している。	80%以上	71 C	76 C	92 A	C	B	<ul style="list-style-type: none"> 保護者に理解をしていただけるよう、連携とをって指導していると思う。 規則正しい生活について啓発し、保護者への意識を高め、連携を図っていきとよい。 子どもたちに時間の大切さを考える機会を与えるとよい。 生活習慣は、家庭と連携しないとできないので保護者の協力をいただきながら進めていく。 「すやすやカード」「食べようカード」などを提示してもらえると、子どもたちが意識して取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 養護教諭や栄養教諭の生活指導や食育指導を継続・充実させ、規則正しい生活習慣の定着、心身ともに健康な生活等について学校で指導したり、家庭に協力を仰いだりしていく。 心身の健康にかかわる課題については家庭で考えていただく機会を設ける。
	○体力のある児童が育っているか。	お子さんは、体育の授業や休み時間、帰宅後や休日に積極的に体を動かし、体力をつけるようにしている。	体育の授業や休み時間、帰宅後や休日に積極的に体を動かしている。	体育の授業や休み時間など、子どもたちが体を動かす時間を確保し、体力向上に努めている。	80%以上	74 C	80 B	91 A	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 休み時間に外で元気に体を動かし運動している子どもたちの姿を目にし、元気をもらっている。 スポーツクラブに加入していない児童には、外で遊ぶ経験・体験を増やせるとよい。 天気の良い日は外に出て遊ぶことや「なわとび」の楽しさを教え、体力向上に努めてほしい。 外遊びが苦手な子にも配慮してもらえるとありがたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 「新しい生活様式」に配慮しながら、休み時間等、外で遊ぶことを奨励するとともに、学級や学年全体で遊んだり活動したりする機会を設ける。 家庭学習や自主学習の一つとして、なわとびやジョギング、散歩など「体力づくり」に取り組みせていく。
安全教育の推進	○緊急事態や災害が発生したとき、児童が自分自身で身を守る意識が高まっているか。	学校は、「不審者対応訓練」「避難訓練」などを通して、子どもたちの安全意識を高める指導に取り組んでいる。	「不審者対応訓練」や「避難訓練」を行うことで、もしものとき安全を考えて行動することが出来る。	「防犯訓練・避難訓練」を通して、子どもたちの「自分で自分の身を守る」意識を高める指導を行っている。	80%以上	97 A	96 A	96 A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 不審者対応訓練では、教職員が率先して児童を守ることから行い、児童も現実的なマニュアルに沿って行動し、安全の確保に努めてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 「自分の身は自分で守る」という意識を高めさせるため、事後の指導を充実させた訓練を実施する。 事件や災害発生時に、職員が対応できるように基本的な動き(マニュアル)の確認、共通理解、見直しを行う。 危険を予測した視点をもって安全点検を行う。
	○適切な交通安全指導・対策がなされているか。	学校は、事故ゼロを目指し、保護者や地域と連携した交通安全指導や、登下校時の安全等についての指導をしている。	交通事故にあわないように、安全に気をつけて、登校している。	事故ゼロを目指して、登下校時の交通安全や危険回避の意識について指導している。	80%以上	89 B	98 A	96 A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 通学班を見ても、ルールを守って登校する姿がうかがえる。 交通事故が多い場所を把握し、その場所の通行の仕方など、現地で児童に指導することも必要だと考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 登校班での安全な歩行について指導を徹底する。 通学路点検や保護者へのアンケートを実施し、通学路の安全性を確認する。危険箇所については全職員で情報共有し児童へ指導を行ったり、町へ対策を依頼したりする。
信頼される学校	○保護者から理解を得るための情報提供・対応が適切に行われているか。	学校・学年・学級だよりや連絡帳等により、学校のことやお子さんの様子がわかる。	学年・学級だよりや連絡帳等により、学校・学級や子どもたちのことを分かりやすく伝えている。	学年・学級だよりや連絡帳等により、学校・学級や子どもたちのことを分かりやすく伝えている。	80%以上	93 A	/	95 A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 通信等で、子どもたちの様子がよくわかり、コロナ禍だからこそありがたいという声を聞いている。 学校での出来事などをホームページを活用し、保護者や地域で情報の共有が図れるとよい。 WEBページの情報は、限られた人になりがち。地域の方に興味を持ってもらえるよう、紙面情報の提供(回覧)があるとよいと感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> 連絡帳や通信を活用し、学校・学年・学級の取組や活動、児童の様子などを伝えていく。 HPの定期的な更新やHPで必要な情報提供を行う。
	○お子さんの様子などについて相談したいことがあるとき、連絡がとりやすい。	お子さんの様子などについて相談したいことがあるとき、連絡がとりやすい。	心配なことや悩み事があるとき、先生に相談しやすい。(先生は、相談にのってくれる。)	保護者や子どもにとって相談しやすい人間関係作りを行っている。	80%以上	94 A	87 B	100 A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 相談しやすい環境づくりが必要であり、どんなことにも耳を傾けて聞く努力をお願いしたい。 欠席した時には、必ず学校から連絡があり、とても話しやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> 連絡帳や電話等を活用した家庭との情報共有や情報交換を継続していく。 児童言動の変化を見取り、保護者へ速やかな連絡・情報提供を行う。